

# など視察

いのちと地域を守る

東日本大震災の伝承と防災啓発の担い手育成を目指し、河北新報社などが企画した「3・11」伝える／備える『次世代塾』の第9回講座が14日、石巻市であった。大学生ら受講生約60人が同市大川小などを視察。遭難者の話を聴いて災害犠牲の重みと向き合い、当時の出来事を教訓とすることを学んだ。

震災前の楽しげな学校の日常も紹介しつつ、「亡くなった子どもたち、先生の思いに引き合えないと死が無駄になる」と語った。被災者の心のケアに当たる「かっこいいアーション」も訪問。理事の精神科医宮城秀晃さん(63)は、震災後の環境変化でアルコールなどに依存する人や孤立感、孤独感を募らせる人が増えていることに懸念を示し「心のケアは今後ますます大事になる」と述べた。東北福祉大3年下山聖奈

## 金沢からも5人が参加

津波の痕跡に衝撃  
石巻市で14日にあった

東北福祉大、仙台市を中心とする3・11次世代塾推進協議会の主催。年15回の講座のうち3回を被災地視察に充てている。

拠点に活動する学生団体「地域学生メディアアツツみ」の5人が特別参加した。メンバーの多くが初めて震災の被災地を訪れた。金沢大1年千葉燦太さん(20)は津波の痕跡が残る石巻市大川小に衝撃を受けた様子。「犠牲になった子どもたち、先生たちはさぞ悔しかったと思う。同じことを

金沢美術工芸大3年の古山千穂さん(21)は「心の問題を抱える被災者が多いと知り、サポートの必要性を強く感じた」と語った。学生らは、北陸中日新聞(金沢市)の若者向け紙面「pop press」(ポプレス)の担当記者の呼び掛けに応じて参加した。後日、同紙で特集するという。

## 新聞記事コンクール河北新報社賞初の2点 遠藤さんと関本さん(宮城)受賞

河北新報社は14日、第23回新聞記事コンクールの入賞者を発表した。最高賞の

河北新報社賞は初の2点となり、石巻市寄磯小6年、遠藤伶明さんの「寄磯のホヤは世界一」、宮城県泉高2年、関本千夏さんの「闘う勇気を持つとう」が受賞した。第70回新聞週間(15、21日)に合わせて実施した。表彰式は15日、同社で行う。

遠藤さんは、寄磯で多くの海産物が取れることに気付いた。学校の海洋体験でホヤむきに苦労したことを織り交ぜ、「寄磯のホヤは世界で一番うんめえぞ!」と、地元の言葉で力強く発信した。

関本さんは、小学生の時にクラス内でいじめが起き、担任やクラスメイトにいじめをやめるよう説得した。経験を振り返り、いじめが起きたらを見て見ぬふりをせず、闘う勇気を持つよう呼び掛けた。

## 大崎八幡宮 賞、防災・教育室長賞の受賞者は次の通り。(敬称略)

- 【論説委員長賞】仙台市富沢小6年、高橋愛佳「いじりといじめ」▽尚絅学院中3年、渡辺真央「自分らしく生きるために」▽宮城県泉高2年、折原杏璃「サポートする人をサポートしてあげよう」
- 【編集局長賞】仙台市富沢小6年、只野未世「世界と日本と食料問題」▽宮城県古川黎明中3年、高橋樹輝「町の焼鳥屋さん人々に笑顔を届ける」
- 【防災・教育室長賞】宮城学院中1年、岩崎あかり「震災」を忘れないために



コパ宮城で行われたPVに集まり、東北楽天の選手に声援を送るファン

「一回、先発の則本昂大制2ランを浴びる苦しみなり、三回は打者一巡許して5失点。会場は包まれたが、仙台市太一ト従業員佐藤真由美は「まだこれから。若て勢いをつけて」と声た。

打線が終盤まで好機をこがでず、0-10の。宮城原七ヶ浜町の会光さんの2は「もう一ないが、切り替えるし(第2戦に)先発する手をバットで援護してと打線の奮起を期待し

## 国賠訴訟あす地裁判決

# 対応争点

10年11月、自宅で菅原勝男のは警察官の不適切な対応が

とや、臨場した警察官らの証言を根拠に反論。「一時

## 「与えた」判断正当

事件 国賠訴訟の主な争点

の主張	県(県警)側の主張
論と判断し、い事件と認めた	緊急性があると判断し、無線で指令する際に「至急通話」を示す音を鳴らした
キや警棒を現場に入	一刻も早く事態を収めるため、装着を省略した
いし、2人津谷さんの	津谷さんが菅原受刑者からつかみ取った拳銃を、1人の警察官が危険回避のために取り上げようとした
る調書を作	刑事事件の証拠をねつ造する必要はない。真相を隠した事実もない

増刷続き203万部に  
早川書房(東京都千代田区)は14日までに、今年初のノール

## 「病も楽しみ 生きた子規」 生誕150年 出身地松山で式典

身の子規の魅力を語り合った写真。キャンベルさんは「子規の協調性や生き方に、現代人のあるべき姿を見ることができると指摘し、神野さんは「子規の姿は、高齢化社会における私たちの一つの理想かもしれない」と語った。約420人が参加。パネルディスカッションでは、坪内氏と日本文学研究者のロバート・キャンベルさん、松山市出



規は、俳句をやっている。松山の人のとっていつま親しみやすい存在」と話し式典は、子規と同じ186生まれで、子規と交友のた夏目漱石と、子規の功伝えるのに尽力した松山身の子規柳原極堂の生誕念して実施された。